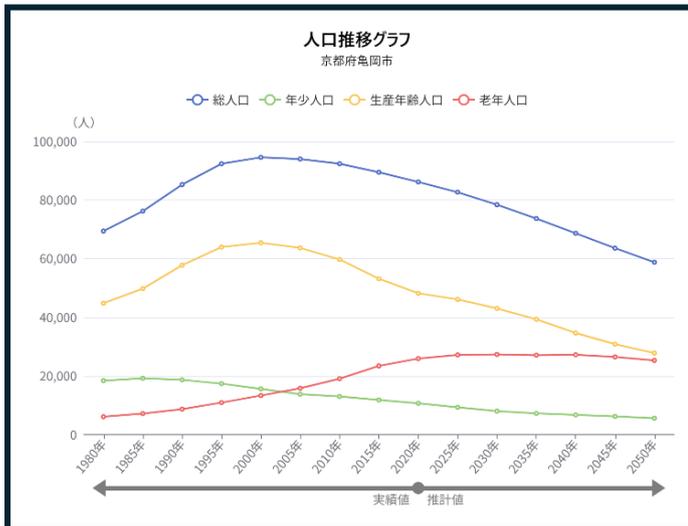


## 【1】人口構成と動態：地域の基礎体力

### 1. 総人口の推移と将来推計（2020年）



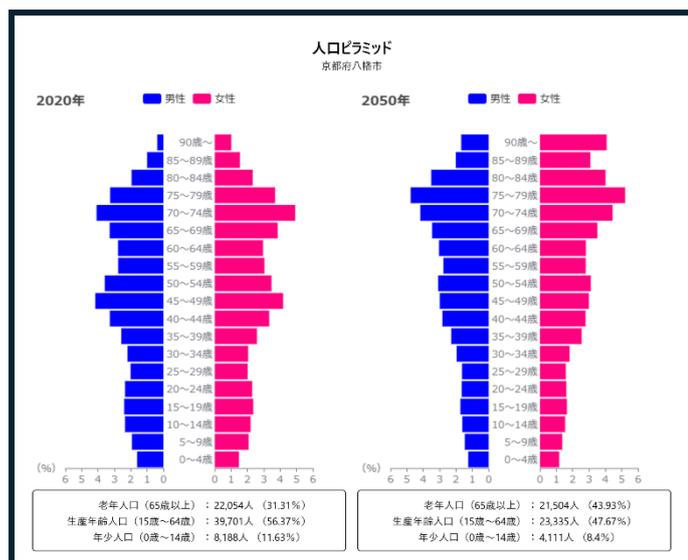
・人口マップ > 人口構成分析 > 人口推移

【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- ・2020年の人口は70,433人。2000年の73,682人に比べて、大きく減少している。将来人口を見ると、今後も人口減少が続く見込みである。
- ・今後の傾向として、年少人口と生産年齢人口は減少傾向であり、老年人口はしばらく横ばい傾向である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳。老年人口は65歳以上を指す。

### 2. 人口ピラミッドの変化（2020年）



・人口マップ > 人口構成 > 人口ピラミッド

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

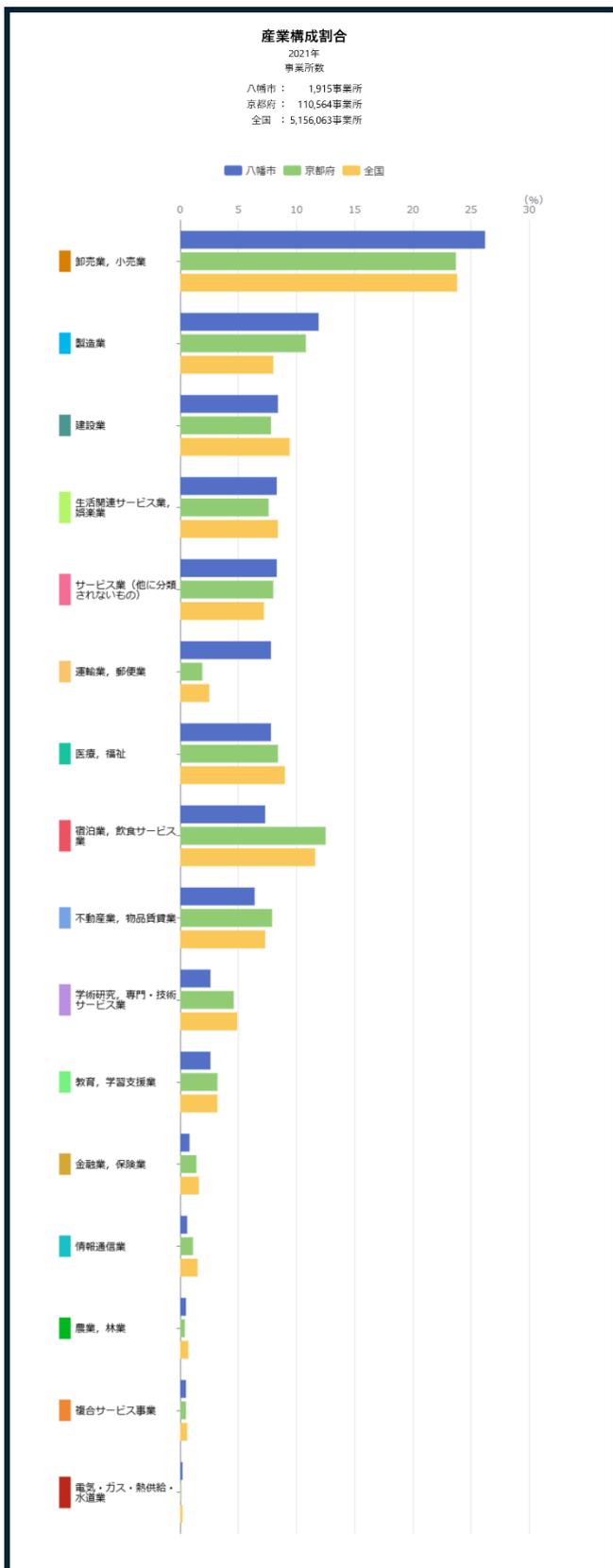
- ・国勢調査の最新年（2020年）と将来2050年（推計）を並べて比較表示している。
- ・老年人口の割合を見ると、2020年の「31.31%」から2050年には「47.67%」まで上昇する。
- ・一方、年少人口の割合は、2020年の「11.63%」から2050年には「8.4%」まで減少する

※高齢化率：65歳以上の割合を数値で記載。医療・介護需要の増大を示唆します。

※若年層：0～14歳人口の割合から、将来の持続可能性を評価します。

## 【2】 産業構造：地域の稼ぐ力

### 1. 産業構造の全体像（事業所数、2021年）



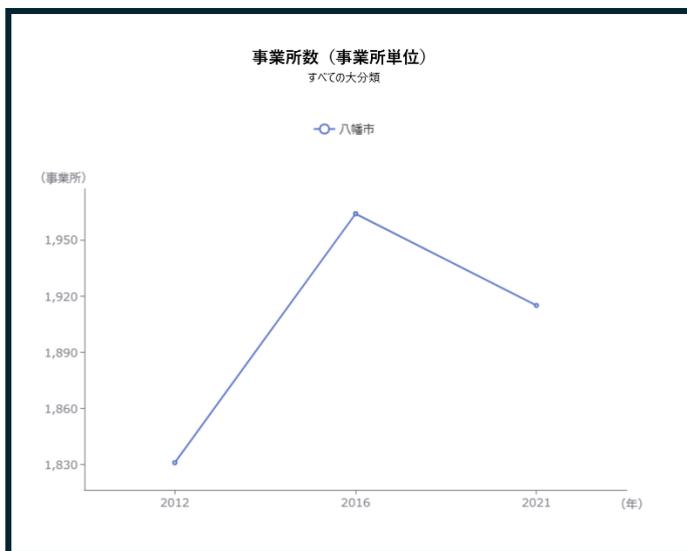
・産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- ・業種ごとに地域の事業所数の順で並んでいる。最も多いのは「卸売業・小売業」で、501事業所である。構成割合は、「26.2%」を占める。
- ・2番目に多いのは「製造業」で、228事業所である。構成割合は、「11.9%」で京都府の平均より高めである。

### 2. 産業構造の全体推移（事業所数、2021年）

・産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）



- ・2021年の事業所数は、1,951事業所である。2012年は1,831事業所であり、増加している。
- ・近隣の、京田辺市も同様に増加している。

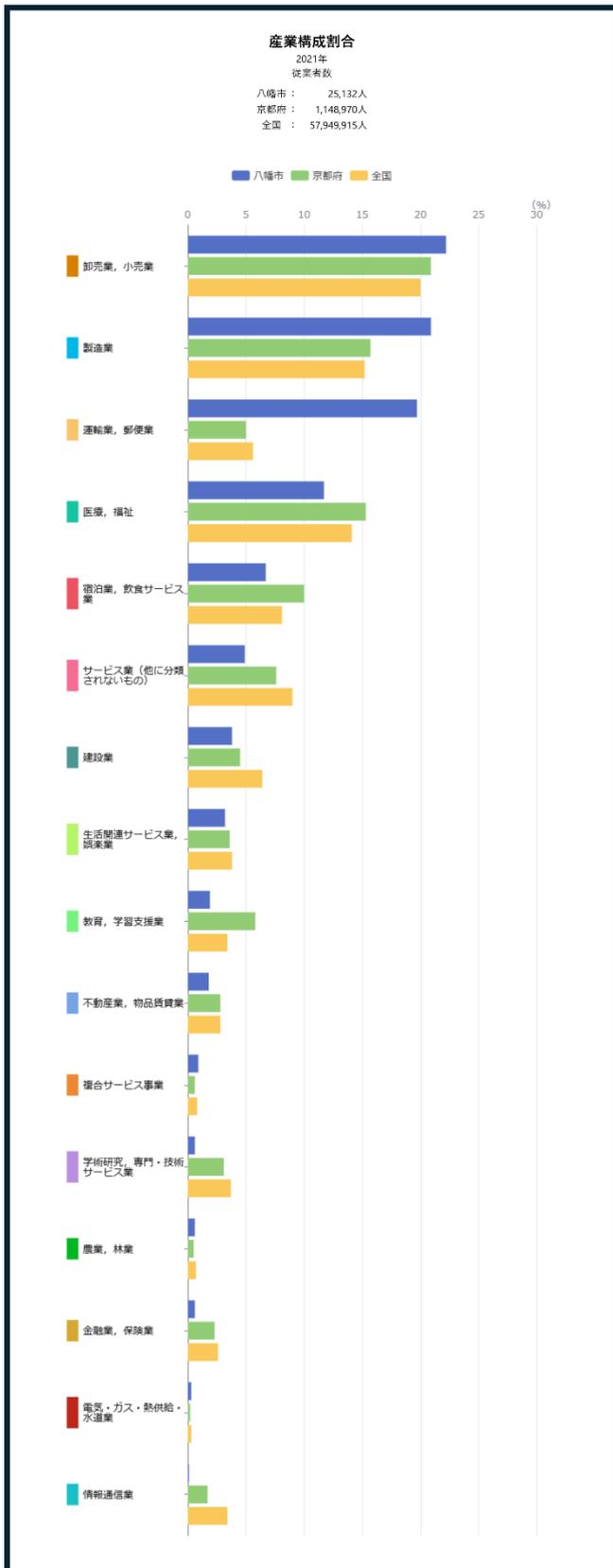
・卸売業・小売業

513事業所(2012年)→ 501事業所(2021年)

・製造業

228事業所(2012年)→ 228事業所(2021年)

### 3. 産業構造の全体像（従業員数、2021年）



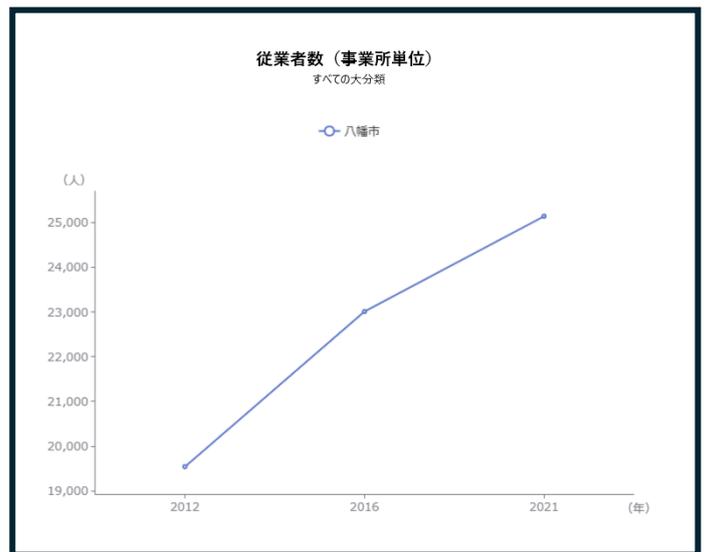
・産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- ・業種ごとに地域の従業員数の順で並んでいる。最も多いのは「卸売業・小売業」で、5,574人である。構成割合は、22.2%を占める。
- ・2番目に多いのは[製造業]で、5,252人である。構成割合は、20.9%で地域の雇用を支えている。

### 4. 産業構造の全体推移（従業員数、2021年）

・産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）

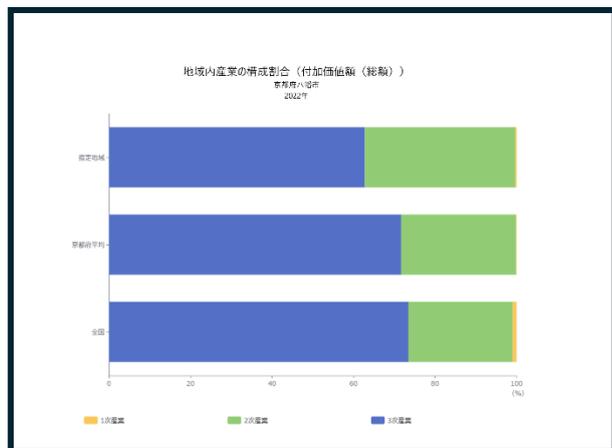


- ・2021年の従業員数は、25,132人である。2012年は19,537人であり、増加している。
- ・近隣の「京田辺市」でも、従業員数は増加している。

## 5. 産業別付加価値額の構成(2022年)

・地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る

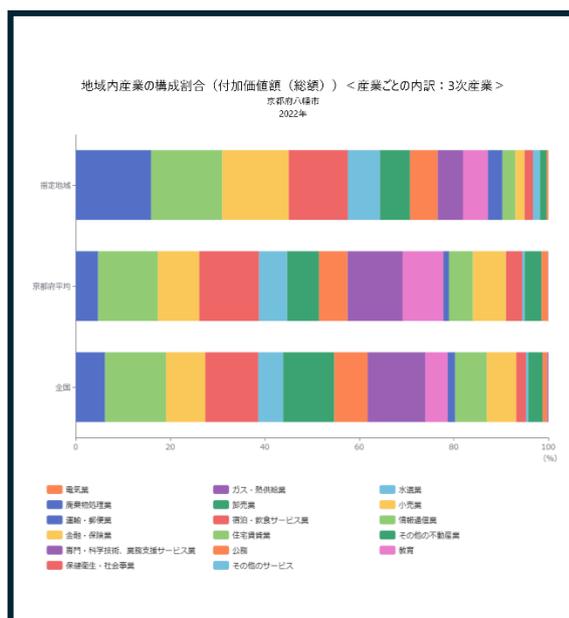
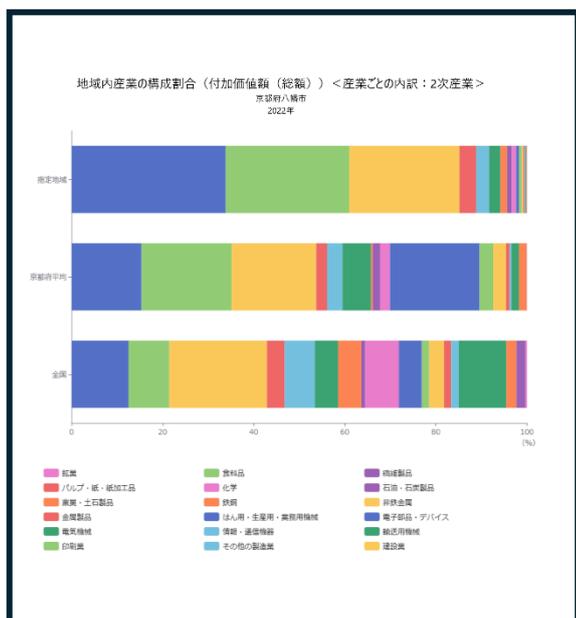
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)



・地域の産業の構成割合を京都府及び全国と比較したグラフである。比較では地域の3次産業が62.8%、2次産業が36.9%は、京都府の3次産業が71.7%、2次産業が28.2%、全国の3次産業が73.5%、2次産業が25.6%と比較して、当地域は、3次産業の割合が低い。

## 6. 産業別付加価値額の構成(2022年) 産業ごとの内訳

・地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る



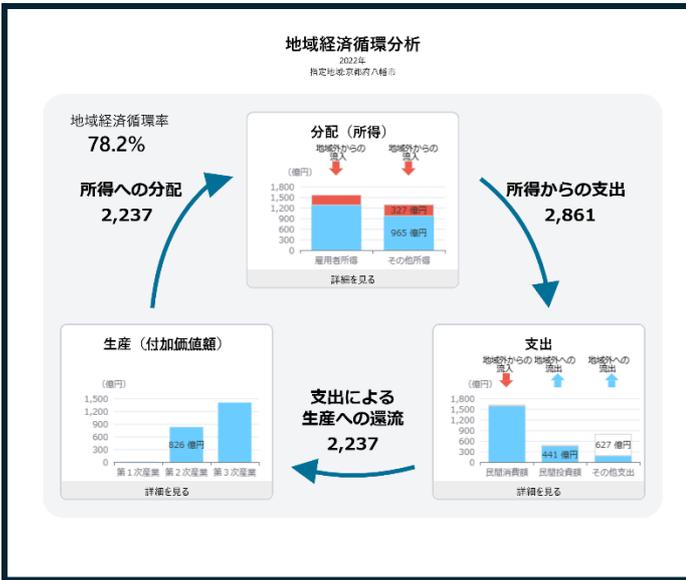
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- ・地域内の二次産業で、構成割合の一位の「はん用・生産用・業務用機械」が、33.8%、二位の「食品」が27.1%、三位の「建設業」が、24.2%である。地域の二次産業の付加価値額総額は、826億円である。
- ・地域内の三次産業で、構成割合の一位の「運輸・郵便業」が、16.0%、二位の「住宅賃貸業」が、15.0%、三位の「小売業」が、14.1%である。地域の三次産業の付加価値額総額は、1,404億円である。
- ・稼ぎ頭の特定: 従業者数だけでなく、「金額ベース」で最も稼いでいる産業を順に3つ挙げています。
- ・構造的特徴: 第2次産業(製造業)主導型か、第3次産業(サービス業)主導型かを分類します。

### 【3】地域経済循環：お金の流れ

#### 1. 地域経済循環図（2022年）

・地域経済循環マップ > 地域経済循環図

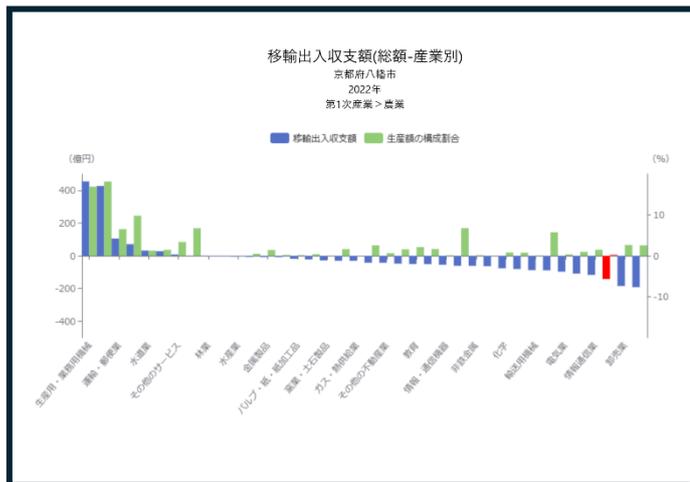


- ・地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。
- ・八幡市は、2,237 億円の付加価値を生みだしている。
- ・その付加価値は、市外との流出入により差引され、2,861 億円が市内に分配され、支出に回っている。
- ・市内に支出された金額は、2,237 億円。地域内の所得 2,861 億円より少なく、稼ぎが市外へ流出している。
- ・地域経済循環率は 78.2% と、100% を下回っている為、地域外への依存度が高い状態である。

【出典】環境省「地域産業関連表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

#### 2. 移輸出入収支額（生産分析、2022年）

・地域経済循環マップ > 生産分析 > 産業別の分布を見る



【出典】環境省「地域産業関連表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

- ・「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が流出していることを示す。
- ・「はん用・生産用・業務用機械」が移輸出入収支額プラス 455 億円で最も域外からお金を獲得している。
- ・「専門・科学技術・業務支援サービス業」が移輸出入収支額マイナス 191 億円で最も域外にお金が流出している。

この経済分析は「RESAS」活用しています。

作成：八幡市商工会